

出会いをつくり、人に尽くすまちのプロたち



京都先端科学大学人文学部心理学科 君塚洋一教授から、「地元の情報にゼミ生を参加させられないか」と右京じゃんにコールがあったのは2021年秋のこと。未来びとたちのお役に立てるならと、編集部はもろろん快諾。いきなり「まちへ行け。人と出会え」と放たれた学生さんたちのフィールドワークレポートをご覧ください。

好奇心旺盛は縁をつなぐ

NPO法人 キョウノヨリミチ
代表 北條倫子さん



▲参加者の方たちとしめ縄をつくる
北條さん(右から2人目)

やりたいと集まったのがきっかけである。好奇心は猫をも殺すと言うが、北條さんは好奇心によって出会いを見つけている。私も好奇心



▲古心スタジオの会で「かぶら」を収穫。

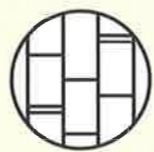
グラムには多数の写真が投稿されている。写真は、部屋の光ではなく、自然光を頼りに、窓から光を入れて撮ることにこだわった。午後より午前の光がよいので、午前中に撮っている。昔は一眼レフを使っていたが、最近スマートフォンで撮影する。加工は明るさを変えることしかしていないとのこと。加工が主流の時代だが、加工しすぎるとそのものが嘘っぽく見えるため、あえてほぼそのまま載せているという。

谷口大晟

北條さんは建築士として働く傍ら、NPO法人「キョウノヨリミチ」として嵯峨鳥居本で活動されている。そもそも建築士になったのもお父さんに「建築やったらなんでもできる」と言われたからだそう。



北條さんはフラワーレッスンや金継ぎ教室を通じて、お花、お皿の写真を撮ることに力を入れている。インスタ



NPO 法人キョウノヨリミチ

@kyo.no.yorimichi

kyo_no_yorimichi

街中の里山

NPO法人 古心庵の会
代表 徳丸國廣さん



大映通り商店街の外れには、「街中の里山」古心庵(こあん)がある。

「古心庵は何をしているのですか?」と聞くと、「部屋を貸しています」と勢よく現当主の徳丸國廣(くにひろ)さんは仰った。徳丸さんはヨガからひよっとこ踊りの練習までいろいろな人たちにスペースを貸す傍ら、京北で農作業をやり、趣味のモータースポーツの施設を作るなど様々なことを手がけている印象だ。

古心庵は現在、子どもにフォーカスして活動している。「古心スタジオの会」という場を設け、子どもたちに向けて不定期に教室を開く。主に料理、陶芸、書道など、子どもに学びの機会を与えている。こ

こを「街中の里山」と名づけたのも、きっかけはどうであれ、人々に心温まる交流の場を提供することを願っていることなのかもしれない。

松延瑠



▲古心スタジオの会で「かぶら」を収穫。

NPO 法人古心庵の会

@kocoan

山田洋次監督が惚れ込んだ日本のお父さん

クリーニングひがして
東出耕太郎さん



▲奥さんの好子さんとともに映画に出演

そんな職人気質と威厳のあるお父さんの人物像に山田洋次監督が惚れ込み、映画『京都大森物語』(二〇一〇年)にご夫婦で出演することになった。映画では日本のお父さんを背中で演じていた。出演のこと



や大映通り商店街の歴史も話してくれる東出さんは、頑固な反面、とても気さくで接しやすい方だった。

西村大樹



住所: 太秦桂ヶ原町 17-70
電話: 075-872-6320
営業: 8時~19時30分
定休: 日曜

食を究める仕事師たち

創作に賭ける菓子職人 茶菓えん寿 泉寿満さん



「和菓子屋、洋菓子屋と分ける必要はない」と泉さんは考える。常に時代の一步先を見ている人なのである。

深田菜月



住所：太秦多敷町 14-93
電話：075-432-7564
営業：10時～17時
定休：毎週水・第三日曜



UNOのオーダーメイドコーヒー

店主の泉寿満さんがこだわって作る菓子は店内だけでなく店先でも販売されている。大映通り商店街には和菓子を店先で売る文化がある。店頭で目を惹くお菓子を買い歩くのは楽しいし、地元の方との会話も生まれる。

泉さんは物事にとらわれぬ発想を持ち、和菓子と洋菓子の垣根を越えた「菓子」を作っている。例えば、和菓子のどら焼きと洋菓子のマリトッツォを掛け合わせた食べやすい甘さの「どらトッツォ」や、タピオカをイメージしたわらび餅の食感がアクセントとなる「飲むわらび餅」などがある。



▲店先でゼミ生に話をする泉さん

美味しいコーヒーの伝道師

コーヒーと雑貨 UNO 鵜野倫さん



「コーヒーの美味しさを広め、自宅で簡単に美味しいコーヒーが飲めることを知ってほしい」との考えから、店主の鵜野倫さんはお店を出すことになった。

コーヒーは約20種類の豆、四種類の焙煎度合い、10種類のミル度(豆を挽く度合い)から選べる。そんなお店のコーヒーは、素人の僕でも分かるほど後味がスッキリして飲みやすく、感動した。



住所：常盤草木町 3-3
電話：090-9862-4645
営業：平日 10時～20時
土日 10時～19時
定休：火曜・祝日

高西駿社

大切さかな。徳丸さんは古く庵に集まった人たちのコミュニケーションから新たな企画を立案し実行して、ちよっとしたやり取りから大きなものに発展するんだなっ

ゼミ生座談会

右京のフィールドワークをふりかえって

「右京じゃんのページ、貰ってきた」。すべては担当教員のこの一言から始まりました。学外での初めての活動に不安しかない中、大学三年のゼミ生六人は右京区について調べ、太秦界隈をフィールドワークしました。そして出会ったのは、多彩な活動で集いの場を作るまちづくりのプロの方たち、熟練の技で人に尽くし、常識を覆す職人さんたち。そこから、人材の宝庫・右京という地域の豊かさが見えてきました。

ゼミ生六人、悪戦苦闘の日々

西村：ゼミでいきなり雑誌に載せるって言われても困るし、みんな驚いたよな。
深田：学外での取り組みが初めてだから、不安だった。
松延：自分は「まあなんとかなるやろ」って思ってた。でもいざ始めてみると思ったより大変で難しい課題だった。
中村：私もなんとかなるって思ってたかな。放送部で学生向けの作品の取材したことあるし。でも、今回は一般の人が読む記事だから、世代の違う人たちにも伝えないといけないのが難しかった。
谷口：自分たちができるのになって感じたけど、自分たちに

まちなちたちの出会いから学んだこと

西村：東出さんは、損得で仕事しない。お金のためではなく、お客さんの笑顔のために働くというのが尊敬！
深田：自分は働く上での軸がなくて、人に流されやすいので、泉さんのこだわりを持った仕事の取り組み方に感化されました。

中村：私も軸持たないって無理やり作ったから、あれもこれもやりたい！で一歩踏み出す力がある北條さんの行動力がいいなって思った。行動に移せる勇気を持つようと思えた。
谷口：北條さんは、好奇心で始めたことをそのまま仕事につなげているのがすごい。
高西：自分は一つのことを突き詰める大切さを学んだかな。身近なものでも一つのことを深掘りするのと知らなかった世界に触れられるんだなと。
松延：自分はみんなと少し違って、コミュニケーションの



京都先端科学大学
人文学部心理学科
君塚 洋一教授



▲キョウノヨリミチ代表・太秦出身の北條倫子さんに、大映通り商店街を案内いただきました。

三ヶ月で地元の魅力を掘り起こし、読者の方が楽しく読める記事に仕上げる。社会調査を学ぶ学生にも今回はハードな課題でした。ネット全盛の今、学生らは右京の魅力の源に迫ろうと、二転三転する企画の練り上げに耐え、お忙しい地元の方の懐に飛び込む貴重な機会をいただきました。みなさんのご厚意にこたえ、彼女らが自分や仲間の殻を破って、社会に巣立ってくれることを願っています。